

[受賞の言葉]

このたびは、日本計画行政学会第 21 回計画賞において「優秀賞」という栄誉ある評価を賜りましたこと大変光栄に存じます。

私たち大刀洗町が真正面から向き合ってきたのは、郊外型地域において住民票基準の制度では捉えきれない、町外から町内企業に通勤していただいている人々の存在です。日中の地域を支えていただいておりますが、制度の上では担い手として「見えない」、この現場の矛盾こそが本計画の出発点でした。

制度を事前に形づけることから始めるのではなく、企業・町民・行政の対話を起点に、小さく実装し、成果だけでなく失敗の学びも積み上げながら、制度化へとつなげてまいりました。段階的な設計によって、企業と地域の接点生まれ、担い手は確実に広がり始めています。

本受賞を励みに対話と学習を止めず、郊外型地域の自治体が「小さく始めて、回し続けられる」持続可能な地域政策へ踏み出すための新たな実装モデルとして、さらなる発展と波及に挑みます。

末筆となりましたが、本計画にご協力いただいた町内企業・地域の皆さま、研究機関・大学等の関係者の皆さまに心より感謝を申し上げますとともに、貴学会の益々のご発展をお祈り申し上げまして、「受賞の言葉」とさせていただきます。

大刀洗町長 中山 哲志

大刀洗町地域おこし研究員（協力隊） 山田 貴裕